

# とり年・大きくはばたこう片岡!! 駅西口にもイルミネーション

昨年十二月一日、片岡駅西口の完成を記念して東口、西口同時にイルミネーション点灯式が、十五、十六日には駅西口でキャンドルナイトが行われました。念願だった駅西口ができたことで、片岡地区は大きく変わります。

片岡地区を盛り上げるために活躍している皆さんや地域の方にお話を伺いました。

●イルミネーション・キャンドルナイトの企画・実施主体である片岡地区コミュニティ推進協議会会長 長江面晃一さんに「これからどうする!片岡」を聞きました。

駅の東口、西口がつながり、使い勝手の良くなった通路を活用して、交流を盛んにしていきたいです。

また、何といても線路沿いの見事なツツジを片岡駅のシンボルにしたいと思っています。本気で片岡を元気に、魅力のある地域にしたいと思っています。知力・活力・協力の輪をどんどん

ん広げたいです。コミュニティ役員ほか多くの方にもご支援ご協力いただきイベントが実施でき、十六日には、約三〇〇人以上の来場者で大いに盛り上がりました。とちぎテレビの生中継もあり、県内全域に片岡を発信することができました。

●イベントにあわせ、駅東口、西口に「ふれあいの場」を開設した婦人会片岡支部の方にお話を聞きました。

当日は、午後五時から温かい甘酒やコーヒー、お菓子の接待、お子さんに袋菓子さんのプレゼントを行いました。また、十六日には豚汁も用意して振る舞ったので、来た方には喜んでもらえました。

今年、東口、西口にイルミネーションが点灯したので、人出が大幅に増えました。

●駅西口ができて変わったことは?

○大きな変化はありませんが、公営や企業のバスなどが西口に移ったので、ロータリー付近の朝夕の混雑が解消されました。(駅東口の老舗店主)

○駅の通路を通って買い物に行けるのでありがたいです。ロータリーの近くに一休みできるあずまやのようなものがあれば縁側のように人が憩えると思います。近所に商店が一軒もないのでスパーのようなのができるれば便利になりますね。(駅西口の主婦)



●取材雑感  
これからの片岡地区発展の要となる片岡駅をイルミネーションが明るく照らしました。駅西口はトイレなど整備が進められています。もっと便利に変わってゆく片岡駅のみならず、片岡地区のこれから!注目!! (M・K)

# 自然がいっぱい!楽しくがんばる 泉地区むらづくり推進会議!!

一月九日、泉公民館で、新春講演会「傾聴であたたい人間関係を!」が開催され、参加した地域住民八十人が、講師の話に熱心に耳を傾けていました。

当日、会場でこの講演会を主催した推進会議幹事の渡辺和昭さんにお話を伺いました。

●推進会議の発足は?  
昭和三十年に矢板町に合併した旧泉村が、現在の泉地区で、矢板市街地からは少し離れています。この地域の生活環境は、時代の流れと共に変化し、少子高齢化が深刻化しています。そこで、泉地区内の各層住民が明るい地域づくりに取り組むことで、泉地区の人たちに「みんなが集まって仲良くしてもらいたい、楽しんでもらいたい」という思いから、二十五年以上前に泉地区むらづくり推進会議を立ち上げました。会の名前を「まちづくり」ではなく「むらづくり」としたのは、発足当初

は農家の方が中心だったことと、矢板市街から少し離れているからです。推進会議は、各行政区域長、自治公民館長、育成会、老人会で構成されています。

●主な活動内容は?  
活動の拠点は、泉公民館で、年間を通して活動しています。活動資金は、行政区からの負担金や不用品バザーでの収入です。

ふれあいまつり、花いっぱいコンクール、グラウンド・ゴルフ大会、新春講演会など、地域に密着した内容の活動をし、地域の皆さんに楽しんでもらっています。特に目玉は「泉地域ふれあい祭り」です。毎年五、六百人以上の方が参加し、子どもから高齢者までたくさんの方が集まり、もちつきややきそば販売、とろろごはんなどおいしい物が食べられ、みんな楽しんでいきます。

●今後の抱負は?  
地域の魅力は自然がいっぱいなところだと思います。高原山の自然や近年で



きたミュージアムなどを市内外の人知ってもらいたいのです。そして、多くの人に来てもらう、住んでもらえるようにしたいです。

●課題は?  
生活用品や食品を買うコンビニやお店がなく、市街へ買い物に行かなければならない環境にあり、交通機関は市営のバスのみなので、祭りにも参加できない地区の人がいます。参加者を増やすには、自家用車の送迎が不可欠です。せめて祭りの時は、デマンドバスが走ってくれたらありがたいですね。(T・O)